



や は た

The Salvation Army YAHATA Corps



八幡小隊に関わりのある皆様

「主御自身が建ててくださるのでなければ 家を建てる人の労苦はむなし。」
詩編127編1節

八幡小隊が当地で働きを開始してから今年で110周年となります。それ以前に、門司小隊から事前の働きかけがあったことが、『八幡小隊四十年記念誌』（1955年発行）に記されています。「その当時、八幡には門司小隊の分隊があり、矢野曹長夫妻を中心に盛んな集会をなしつつあった」と。そして1915（大正4）年の八幡での最初の集会の様子を、淵本清一郎小隊長は「8月5日に八幡製鉄所大蔵養成所講堂で、山室軍平大佐の講演があり、聴衆が会場にあふれ盛大な大集会であった」と記しています。そのようにして始まった八幡での働きの拠点については、「最初の八幡小隊は、本通り、二階建て長屋の二階にあり、粗末なものであった。同じ地には、仏教済世軍の本部があり、我軍に対し、彼らは迫害し、営内に石を投じたり、ののりり、やじる等、実に痛烈なものであった」と書かれています。これは、初代教会が誕生した時と同じような経験を八幡小隊でも味わったということです。しかし淵本小隊長は、「青二才の青年士官、しかも最初の小隊長として、尊い体験をさせて頂き、現在も往時を回顧すると、感謝感激が湧いてまいります」と記しています。淵本氏は、その後も救世軍士官としての生涯を全うされました。

その後の八幡小隊の所在については、吉村勘蔵氏の記録によると、「八幡市西本町の一角に八幡小隊が開設。その後、八幡市豊山町に移転し、私は昭和9年4月、この場所にて回心者として、入隊を許された。昭和19年5月、大東亜戦争のため小隊は疎開、八幡市西古谷町2丁目549に移転。昭和20年8月、戦災にて陣営具など全部消失す。」その当時のことを、長見治夫氏は、次のように記しています。「小隊会館は強制疎開となり、幾度か会館をかえ、ついに士官は召集されて、小隊の書類や備品などを私の家に一時預かるようになったのであるが、空襲により私の家と一緒に、一部の書類を除いてすべて焼失したのは、やむを得なかったとは言え、申し訳ない気がしてならない。」

戦後、山川牧師（戦時中、救世軍は日本基督教団 第11部「救世団」に士官も牧師に）は、いち早く「昭和20年11月、到津製鉄寮にて集会をなす。昭和21年7月、八幡槻田小学校前市営住宅に移転。ここで「救世軍八幡小隊」の本格的運営を始めました。しだいに集会人数も増加し、やがて、昭和23（1948）年4月、八幡市中本町に新会館が献堂されました。この会館が、日本の救世軍では戦後、最初に新しく建てられた小隊会館となりました。この会館を建てるために、土地の確保から、献金、そして上棟式にいたるまでの勤労奉仕を当時の山川小隊長を中心に、戦友方が一丸となって協力し労しました。こうして戦後の小隊復興がなされていき、それから昭和60（1985）年に昭和町の現会館に移転するまで37年間、この中央町の会館でその働きが盛んになされたのです。今月は建物の歴史から振り返ってみました。

今月も、皆さんのうえに、神様の御祝福をお祈りいたします。

■ユーチューブ配信のご案内 聖別会のメッセージは、YouTubeの検索、救世軍八幡、または Salvation Army Yahata で視聴できます。

発行 2025年6月



福岡県北九州市八幡東区
昭和2-4-5

TEL (093) 652-1584

FAX (093) 482-5077

E-mail: yahata@jap.

salvationarmy.org

小隊士官 樋口和光

小隊士官 樋口愛子

樋口少佐 携帯電話番号

070-1390-5365

2025年救世軍標語
「信仰の遺産の上に築く」
（テモテへの手紙二1章14節）



昭和23年中本町（現中央町）に新会館献堂

■八幡小隊 聖別会（礼拝）のご案内

6月8日（日）10：30a.m.

ペンテコステ サンデー 聖別会

6月15日（日）10：30a.m.

父の日 聖別会

ぜひ、ご家族でお出かけください。